

平成28年度 研究・調査企画会議 事前・中間評価部会（第9回）

議事概要

1 日時：平成29年2月15日（水）13：00～16：50

2 場所：食品安全委員会中会議室

3 出席者（7名）

圓藤 陽子（圓藤労働衛生コンサルタント事務所所長）

鬼武 一夫（日本生活協同組合連合会品質保証本部安全政策推進部部長）

村田 勝敬（秋田大学大学院医学系研究科教授）

佐藤 洋（食品安全委員会 委員長）

山添 康（食品安全委員会 委員長代理）

吉田 緑（食品安全委員会 委員）

◎山本 茂貴（食品安全委員会 委員）

（◎：座長）

その他、事務局から川島事務局長ほか10名が出席

4 議事概要

（1）平成28年度食品健康影響評価技術研究追加採択課題の中間評価（ヒアリング審査）について

○ 平成28年10月に追加採択し、次年度への継続を予定している以下の課題についてヒアリング審査を行い、研究継続の要否、研究計画の見直し等について審議した。

<継続予定課題>

1607：発生毒性試験における胎児形態異常に関するデータ収集と骨格変異の毒性的意義に関する研究：フルシトシン誘発性過剰肋骨の発現機序からの考察（桑形麻樹子（一般財団法人食品薬品安全センター秦野研究所））

（2）平成29年度食品安全確保総合調査課題（案）について

○ 第6回事前・中間評価部会です承された課題のうちの3課題及び今回追加で提案した1課題について、審議を行った。

○ その結果、4課題について、仕様書（案）等を修正し、の修正が必要とされた課題については、事務局において修正し、食品安全委員会に報告することとなった。

（3）平成29年度食品健康影響評価技術研究の新規対象課題（案）について

○ 第6回事前・中間評価部会でヒアリング審査を行った11課題について評価所見（案）等の審議を行った。

○ その結果、評価所見（案）を一部修正し、食品安全委員会に報告することとなった。

（４）平成２８年度食品健康影響評価技術研究課題の中間評価結果（案）について

○ 前回の事前・中間評価部会及び本日のヒアリング審査を行った以下の８課題について、評価所見（案）等の審議を行った。

1503：食事由来アクリルアミドばく露量推定方法の開発と妥当性の検討および大規模コホート研究に基づく発がんリスクとの関連に関する研究（祖父江友孝（大阪大学））

1601：経管栄養食品等に含まれるセレン化合物の化学形態に着目したリスク評価及びバイオアベイラビリティに関する研究（小椋康光（千葉大学））

1602：インビボ毒性試験成績のデータベース化とそのインシリコ解析・評価への応用に関する研究（吉成浩一（静岡県立大学））

1603：食品用ペットボトルから溶出する化学物質の摂取量の推定に関する研究（尾崎麻子（大阪市立環境科学研究所））

1604：有機ヒ素化合物による発がんメカニズムの解明（鰐淵英機（大阪市立大学））

1605：血漿マイクロRNAの発現変動を指標とした化学物質の新規毒性評価系の構築・評価研究（横井毅（名古屋大学））

1606：食肉由来腸球菌の抗菌性飼料添加物に対する耐性と多剤耐性伝達性プラスミドとの関係についての調査・研究（富田治芳（群馬大学））

1607：発生毒性試験における胎児形態異常に関するデータ収集と骨格変異の毒性的意義に関する研究：フルシトシン誘発性過剰肋骨の発現機序からの考察（桑形麻樹子（一般財団法人食品薬品安全センター秦野研究所））

○ その結果、評価所見（案）を一部修正し、食品安全委員会に報告することとなった。

（５）その他

○ 事務局から、今後の事前・中間評価部会の開催スケジュールについて説明した。

—以上—

（注：本会議は個別具体的な研究者や研究課題名及び研究の内容に言及して議論が行われることから、非公開で行った。このため、本会議の議事概要についても、それらが特定されない形で公表するものである。）